

1, はじめに

教育自然学研究会は、設立10年目を過ぎまして、この間コロナ禍が第5類に移行され大きな節目となり目標を立て活動が計画され、その目的や活動に沿ったこととなりました。会の設置趣旨をより具体的に実現の目的で「ヒトと自然」として「ヒト」だけが何故か生き残ったか自然をどのように乗り越えてきたか、その生き残るための環境作りは何かを目標とし、第9回研究集会は葉山まちづくり展が「まちフェス 葉山」と名称を変更して開催され2023年11月25・26日「まち fes 葉山2023」に協働として参加し「自然とヒト第1回」の講演・事例発表と自然に親しむ、ワークショップ「葉山町上山口を歩く」の成果を発表展示しました。

研究会で会長は「設立の趣旨」から人類は地球上にしか生きられない、「生命の星地球」と称されるゆえんである。(私たちは)地球の大自然に守られ、(またそれを)守るため、成長の発達段階毎に自然について体系的・継続的に学習し、自然へ感謝・畏敬・畏怖の念をきちんと育てる必要がある。そのために教師や看護師の養成課程に「自然」科目が設定されるよう本研究会で研究整備をする。また、「こどもに豊かな人生観を、患者に生きる喜びを」をモットーに教育と医療の関係者のコラボの機会ともしたい。

第10回研究集会「自然とヒト第2回」が2024年1月28日(日)に定期会場としていた鎌倉婦人子供会館で開催されました。コロナ禍により多くの事業が見送りとなりそのため研究集会を翌年に開催が延期されて葉山まちづくり協会の「まち fes 葉山」の別日程行なわれました。

この度の研究集会で「ヒトと自然」をテーマの講演は、地球環境問題とあわせてとり上げられるようになり、さらに地球温暖化による気候変動や山火事あるいは海洋プラスチックごみ・汚染などの問題がクローズアップされています。こうした問題には、マスメディアや報道により一人ひとりが実際に自然に触れ五感で学ぶことで重要となっているようです。

さらに、コロナ禍によって余儀なくされた日々の生活から実感したもので、自然(大地、海、空、そこに住む生命)に触れる喜びを感じ、人が手を加わえたものとは違ったもので長年のヒトの文化・生活から発生したものとなっていると感じられ、気にも留めなかった身近にある自然を、今一層感じていただくことが必要かと思われまます。

2,世話人会・決算報告について

コロナウイルスによる感染症の流行が続いて世話人・幹事会・総会の開催が3年間書面決済となってしまいました。

令和2年度(2021)の収入701,015円、会員会費と協賛金で、支出は146,253円で研究会予定の施設費、ホームページ更新、事務処理賃金、会費等でした。

令和3年度(2022)は収入554,762円、会員会費も事業開催が見送られたため徴収が無しで、支出につきましては52,528円で通信事務費ホームページ更新、事務処理賃金、会費等でした。

令和4年度(2023)は収入471,507円で前年度の繰越金と会長からの寄付金で、支出につきましては149,282円で研究会開催時の施設使用料と講師謝金で通信事務費ホームページ更新、事務処理賃金等でした。



第9回研究会 葉山町福祉文化会館で



平野会員のお囃子

3, 第9回 研究集会 「自然とヒト第1回」開催

令和4年10月15日(土)葉山町福祉文化会館において世話人の後、葉山まちづくり実行委員会主催の「葉山を楽しもう」の第19回葉山まちづくり展に参加し、当会の事業報告と研究集会を開催し各事業の結果と講演概要と写真をまじえて展示し来場者に説明を行いました。

○オープニング

釜利谷宿郷土芸能保存会 平野 清会員により横浜市金沢区釜利谷に古くから伝わる「木遣・囃子」が3曲、お面をつけて手振りや足の動き巧みに披露されました。保存会は幼稚園生から80歳代の約40名が後世に伝えることで通年とおして練習に励んでいます。

○「博物館を楽しむ」

平田大二 神奈川県立生命の星・地球博物館長



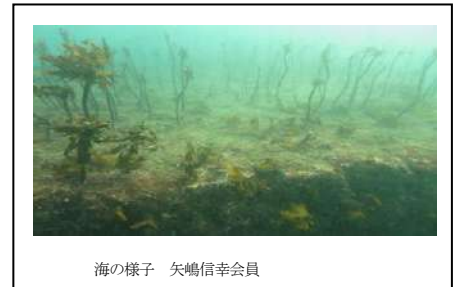
博物館には様々なたくさんの資料が収蔵されたものがあり、博物館資に好奇心をもって見ることで、知識が増え新たな疑問が沸いてくる。資料として保存・保管され、時代を越えて新たな発見につながることもある。知的好奇心を持って、資料を見て、触って、考えることから、新しいアイデアが生まれる。博物館とは何か、そして博物館の楽しみ方についての話となりました。

○「学生の環境教育と草笛」 瀬尾克美会員

小学生の環境教育として神奈川県立東高根森林公園および森林インストラクターとして横浜市、川崎市、町田市の小学校での出前環境教育を実施している。一人で150人の子供たちを対象にする時もあり、その状況・課題およびその中で取り入れる特に草笛について説明をした。



瀬尾克美会員



海の様子 矢嶋信幸会員

○「海草(藻)の激減への懸念」 矢嶋信幸会員

ひと(人類)の進化の変化について高畑会長の進化論の研究の講話の中から「農業革命」自然農耕から肥料農薬の化学の使用進化に異変を感じている。海山が近くにあり、ここ数十年(2000年代)海藻の収穫量が減しているとの漁業者・漁師からの話から磯焼けにより少なくなった、その嘆きから地域の因果関係を調べ、「地球の温暖化」だけでは片付けられない、農薬特に除草薬の事例報告についても発表した。

○「コロナとペストとサピエンス」 高畑尚之 会長

人が病気になる外因の一つは病原体の感染です。病原体には原生動物、細菌、ウイルスがある。いずれも自然の一部に違いないですが、ペスト菌による中世ヨーロッパの黒死病のように、感染症はヒトの歴史に甚大な影響を与えました。ここではマラリアやペストの病原体と共



高畑会長

に、COVID-19の原因RNAウイルスであるSARS-CoV-2の歴史に関する研究を紹介しました。

4、第10回 研究集会 「自然とヒト 第2回」開催

令和6年1月28日(日)午後 鎌倉婦人子供会館において開催、30名が参加

- オープニング フラダンス鎌倉女子大学 Liko Lehua(リコ カ リファ) ハワイアンダンスによる風や海山の鳥などを表現することのフラダンスがハワイアン音楽とともに5曲披露されました。



ハワイアンダンス

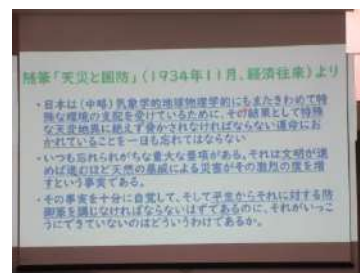
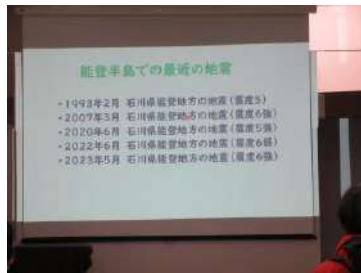
○講演 「自然災害は時と場所を選ばないあらためて能登地震から考える」

平田 大二 神奈川県立生命の星・地球博物館 名誉会員

当初のテーマは「すべては元素からできている」でしたが、2024年1月元旦の16時10分に発生した能登半島地震が起き「能登半島地震 自然現象の予測 津波てんでんこ」としたテーマに変えて、伝えたいことと過去の能登半島地震の状況、避難対策についての講演となった。



能登半島地震について



過去に能登半島付近で発生した記録と位置関係 災害が発生する前の普段の準備、寺田寅彦の随筆「天災と国防」1934年11月経済往来からも示され「自然現象の予測 津波てんでんこ」ということで自分の身は自分で守るとのことが必要です。

○事例発表 「米づくりと自然」

矢嶋 信幸 葉山小学校こめづくり指導



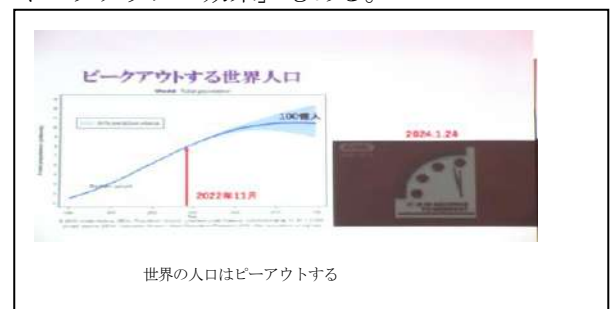
田お越し

地域に残された棚田を教育の場として活用し自然保護に努めている。葉山の4つの小学校が米づくりが自然環境や人の精神面から良いとのことで、里山の保全、無農薬で米づくりを行っている。保護者と児童に農作業の体験が良い結果につながっている。デジタル化で体や神経の動きが変化や劣化している現代に自然に親しむことが良いことである。メンタルヘルス面から原風景から視覚を田園風景に「やすらぎ」や「リラックス効果」もある。

○講演「サピエンスの歴史 最近の話題」

高畑 尚之 総合大学院大学名誉教授

- ピークアウトする世界人口・世界の人口の予測
- 化石記録との比較 人類はなぜ生き残ったか
- 氷河期に火・道具を使う・服装飾を使うようになった。



世界の人口はピークアウトする

地球南北磁場の反転チバニアン等の話題事例の紹介と災害情報ポータルについて世界と日本の災害事例を紹介した。

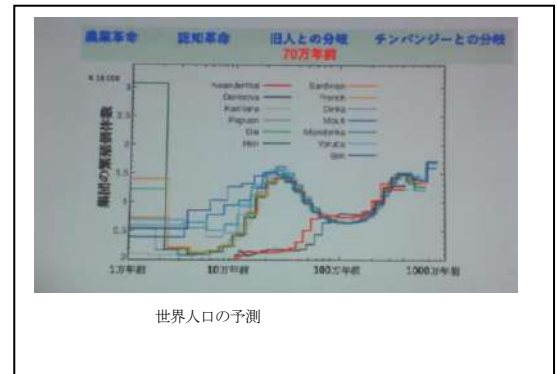
5、ワークショップを開催

○自然に親しむ「葉山町上山口を歩く」

開催日時 令和5年3月2日(日)

会場 葉山町上山口で開催

18名が参加 葉山環境文化デザイン集団の野中康司講師により上山口水源地から歩き地域を見学しました。



世界人口の予測



上山口のコース



炭焼き小屋



参加者

地域の人達が管理する梅林の花・炭焼き小屋の原風景を復活し仕事と人々の暮らしの営みが継承された施設を見学し杉山神社境内で昼食をしました。

◎会を支援していただきました方々協賛会員・協賛団体の皆様誠にありがとうございました。

引き続き会の活動へのご協力をお願いいたします。

お友達・知人の方へ会員ご加入くださるようお願いを致します。

教育自然学研究会 連絡先：〒240-0112 神奈川県葉山町堀内1874

葉山町立図書館内 葉山まちづくり協会気付

教育自然学研究会宛 はがき・メールにて 氏名・住所・電話をご記入下さい。

ホームページ：office@kyoikushizen.com メール：nobuyaji@yahoo.co.jp

発行人：高畑尚之 編集人：矢嶋信幸